

「三重県 心のノート」活用事例

校種	小学校	学年	6年	内容項目	1 - (2)
主題名	夢や目標を実現するために				
資料名	たゆまぬ努力で困難をのりこえる 本居宣長 「三重県 心のノート 小学校5・6年」(三重県教育委員会)				
ねらい	郷土の先人である本居宣長の生き方を知り、自分自身のこれまでの生活体験を振り返りながら、夢や目標を実現するためにたゆまぬ努力を続けようとする態度を養う。				
展開	学習活動と主な発問		指導上の要点		
	<p>1 資料「たゆまぬ努力で困難をのりこえる」を読んで心に残ったところを発表し合う。</p> <p>2 長い期間『古事記』の研究をした宣長の思いを考える。 (発問) 「なぜ、これほど長い期間をかけて『古事記』の研究をしたのでしょうか。」 (発問) 「なぜ、本居宣長は44巻の『古事記伝』を完成させることができたのでしょうか。」</p> <p>3 自分のこれまでの生活を振り返る。 (発問) 「これまでに自分の目標に向かって努力したことはありますか。」</p> <p>4 夢や目標を実現するために何が必要か考える。 (発問) 「夢や目標を実現するために何が必要でしょうか。」</p>		<ul style="list-style-type: none"> 資料を読んで心に残ったところ(下線を引いたところ)を発表させ、心に残った理由も話させる。 児童の発表から、最初は歯が立たなかったことや、35年もの長い期間を費やして『古事記伝』を完成させたことを確認する。 資料から宣長が長い期間、『古事記』研究をしたわけを考えさせる。 資料では、十分に宣長の思いを知ることができないので、想像したことも認めたい。 資料「松阪の一夜」と「うひ山ぶみ」を読み、宣長が『古事記伝』を完成させるまでの行動について考えさせる。 馬淵の教えを忠実に守り、基礎となることをしっかりとしたことや、宣長の学問に対する考え方である継続することの大切さやあきらめずに努力することの大切さをつかませる。 自分のこれまでの生活を振り返らせることにより、教材と自分とを重ね合わせさせたい。 夢や目標を実現するために何が必要かを考え、意見を交流する中で、今後の自分自身の生活の中で生かしていきたいという意欲を高めた。 		
他の教育活動との関	・社会科「町人文化と新しい学問」の学習で、松阪市出身の本居宣長が『古事記』の研究を進め、35年にわたる苦心のすえ、44巻にのぼる『古事記伝』を書きあげたことを学習した。				

連	・ 4月から5・6年生が合同で、なわとびの8の字跳びに挑戦し、記録を更新するために日々練習を続けている。
成果と課題	<p>本学級の子どもたちは、惜しまず努力することができる。これまでも、努力をして良い結果をだすことができた経験も多い。5年の時から現在まで、なわとびの8の字跳びにとりくんできた。決勝大会出場やギネス記録更新を目標に、真夏の暑い時期でも、忙しい時期でも、毎日のように練習をしてきた。また、日常の家庭学習では、学校から出される課題と自主的に考え行う自主学習とを忘れることなく行ってくる地道な努力を続けられる子どもたちである。</p> <p>そんな子どもたちでも、本居宣長の35年という長期間の研究に対して、「よく投げ出さずに、最後までとりくんだな。」と感想を持っていた。「継続すること」、「諦めずに最後までやりぬくこと」で大きな夢でも、難しい目標でも実現することを、実際の話から知ることができた。そして、これまでの自分の経験と重ね合わせ、これからも、諦めずに最後まで努力することを大切にしていこうとする気持ちをもつことができた。</p> <p>今後の生活の中で、継続してとりくまなければならないことがあった時には、本居宣長のことを思い起こさせ、最後まで諦めないで取り組むことができるようにさせたい。</p>